

次期学習指導要領 1枚まとめ｜小学校

特別の教科 道徳 小学校

1つの教材を複数時間で扱い、じっくり考え議論する道徳へ

10秒でいうと

1つの教材を翌週などにまたいで複数時間で扱う。「深める教材」は高学年8・中学年4が目安

道徳科の目標は今の書き方を保ち、「考え、議論する道徳」を授業で実際に行えるようにする方向です。今は1時間に1つの読み物教材を扱い、登場人物の気持ちを読み取るだけで終わる授業が課題とされました。そこで1つの教材を複数時間で扱い、じっくり考える授業を進めます。小学校では発達の段階に合わせ、低学年ではとくに慎重に考える方向です。

1 1つの教材を「複数時間」で扱う

1つの教材を2コマ以上に分けて扱う授業を進める方向です。連続した2コマではなく、翌週に続けて扱うことが想定されています。2コマ目には、読み物ではない「深める教材」を使うことも考えられています。低学年では、複数時間の運用に慎重であるべきとの意見も出ています。P309 P312

授業では たとえば高学年で、1週目に教材を読んで問いを立て、翌週にその問いを話し合いや役割演技で深めることが考えられます。

2 「深める教材」の目安は高学年8・中学年4

教科書の読み物教材を精選し、「深める教材」を充実させる方向です。深める教材の数の目安は、小学校高学年で8、中学年で4、低学年で0とされています。読み物教材と合わせて35コマ分です。これは国が示す教科書のイメージとしての目安です。P312 P313

授業では たとえば中学年では、2時間扱いにする教材を学年で年に数回だけ選び、子供の様子を見ながら広げていくことが考えられます。

3 「深い学び」の2つの視点

道徳科の「深い学び」の手がかりとして、2つの視点を示す方向です。1つは「多面化・多角化」で、ものの見方が一つから多方面に広がることです。もう1つは「自我関与」で、自分との関わりで価値の理解が深まることです。P308

授業では たとえば「主人公はどうすればよかったか」に加えて、「自分ならどうするか、なぜか」を問う発問を1つ入れることが考えられます。

4 端末で意見を共有するときの配慮

端末で意見を見える形にしたり共有したりする活用が示される一方、配慮も求められています。共有が「言いたくないことまで言わされる」圧力にならないようにすることです。家族愛では多様な家族の形、生命の尊さでは病気などへの配慮が必要とされています。P316

授業では たとえば家族を扱う授業では、全体での共有はせず、自分のノートに書くだけでもよい選択肢を用意することが考えられます。

ほかにも変わること（小学校）

- 1つの教材を「複数時間」でじっくり扱う授業を進める P301 P309
- 教科書の読み物教材を減らし「深める教材」を入れる P312 P313
- 「問題解決的な学習」「体験的な学習」の趣旨と「葛藤」の例を分かりやすく示す P310 P311
- 道徳科の「深い学び」を2つの視点で示す P301 P308
- 教師が交代で学級を回る「チームで行う道徳授業」を導入できると明確化 P315
- 各教科・特別活動・社会科と道徳科の連携をはっきりさせる P302 P303 P304
- 全体計画・道徳教育推進教師・高校の「中核的な指導の場面」の見直し P304 P305 P100
- 情報モラルの見直しとAIが生む道徳的な問題を扱う P314

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/
｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。